

関西経済レポート(8月号)

-  6月の鉱工業生産指数は4カ月ぶりの前月比マイナス。前月までの増産から一転減産となったが、四半期ベースで見れば7期連続の前期比プラスであり、増産傾向が続いている。
-  7月の輸出額は前年比+5.5%と17カ月連続の増加。輸入額は2カ月連続のプラスも同+0.5%と微増。結果、貿易収支は-617億円と5カ月連続の赤字となったが、赤字幅は前年比49.9%減少。
-  駆け込み需要の反動が落ち着きつつあることから、7月の景気ウォッチャー現状判断DIは3カ月連続の改善。一方先行き判断DIは4カ月ぶりに悪化。同月の消費者態度指数も4カ月連続で改善が続くが改善幅は縮小。
-  7月の大型小売店販売は前年比小幅プラス。駆け込み需要の反動減の影響は和らぎつつある。
-  7月の新設住宅着工戸数は前年比-20.5%と大幅に下落し3カ月連続のマイナス。今月は貸家の販売不振が影響した。
-  7月の有効求人倍率は前月から0.01ポイント上昇し、6カ月連続で1倍台を上回った。一方、失業率は4.7%と2カ月連続の上昇となり、雇用環境の改善は一服している。
-  7月の公共工事請負金額は前年比+12.2%と5カ月連続のプラスも、季節調整値は2カ月連続の前月比マイナスとなった。6月の建設工事は前年比+4.2%と26カ月連続のプラスも伸びは減速傾向。
-  8月の中国の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、6カ月ぶりに前月から悪化している。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。

鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所

“Kansai Economic Insight Monthly”と連携していま

～ 関西経済のトレンド ～

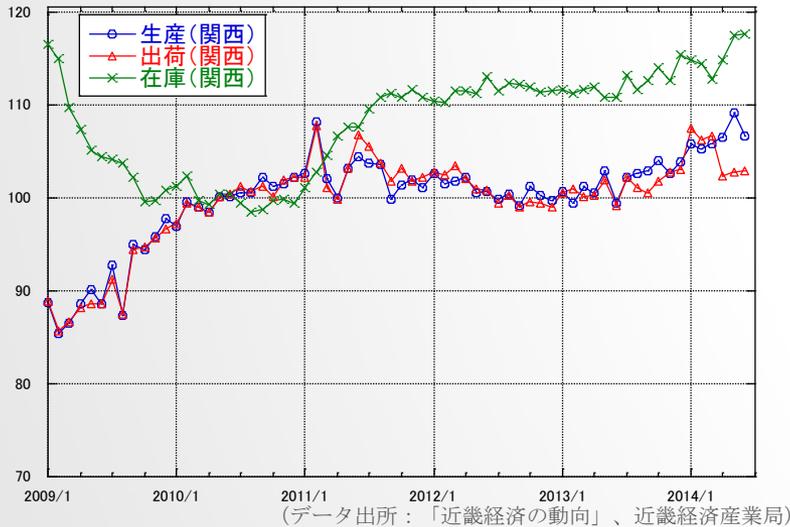
	2013年				2014年							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
生産	↓	↑	→	→	→	→	↓	↑	↑	↓	—	—
貿易	↑	↑	↑	↓	↓	↑	↓	↑	→	↓	↑	—
センチメント	↑	↓	↑	→	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	—
消費	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↓	→	→	→	—
住宅	↑	↑	↑	↑	↑	↓	→	↑	↓	→	↓	—
雇用	↑	→	↑	↑	↑	→	→	→	↑	→	→	—
公共工事	→	→	↑	↑	↓	↓	↓	↑	↑	→	→	—
中国	↑	→	→	→	→	→	→	→	→	↑	↑	↓

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

～生産～

鉱工業指数の推移(近畿・2014年6月まで), 2010年=100



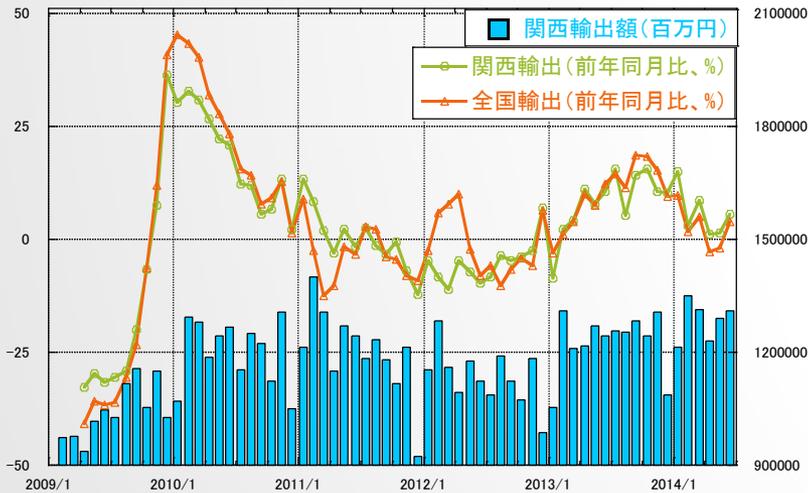
鉱工業指数の推移(全国・2014年7月まで), 2010年=100



- 関西における6月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済)は、生産は106.7で前月比-2.3%と4カ月ぶりの下落、出荷は102.9で同+0.1%と2カ月連続の上昇。在庫は117.6で同+0.1%と3カ月連続の上昇であった。
- 業種別に生産指数をみると、化学(除. 医薬品)(同-8.0%)、はん用・生産用・業務用機械(同-3.1%)、電気機械(同-4.2%)等が下落した。一方プラスチック製品(同+2.5%)、繊維(同+0.6%)等が上昇した。
- 生産指数は速報値(同-2.7%)から上方修正されたものの、前月までの増産から一転減産となった。ただし、4-6月期平均で見れば前期比+1.7%と7期連続のプラスであり、増産傾向が続いている。
- 全国における7月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は96.8となり前月比+0.2%と2カ月ぶりの上昇。同月の出荷は95.9で前月比+0.7%と6カ月ぶりの上昇。在庫は111.5で同+0.8%と3カ月連続の上昇となった。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同+6.3%)、石油・石炭製品(同+3.1%)、繊維(同+1.3%)等を中心に増産となった。一方、輸送機械(同-2.5%)、情報通信機械(同-6.9%)、化学(除. 医薬品)(同-1.9%)等は減産となった。
- 年初より増産と減産を交互に繰り返してきた結果、減産傾向が強まってきていたが(4-6月平均比で見れば、前期比-3.8%と6期ぶりの下落)、足下は僅かに増産となった。製造工業生産予測調査では、8月(前月比+1.3%)、9月(同+3.5%)と加速しており、今後は緩やかに生産が回復に向かう見込みである。

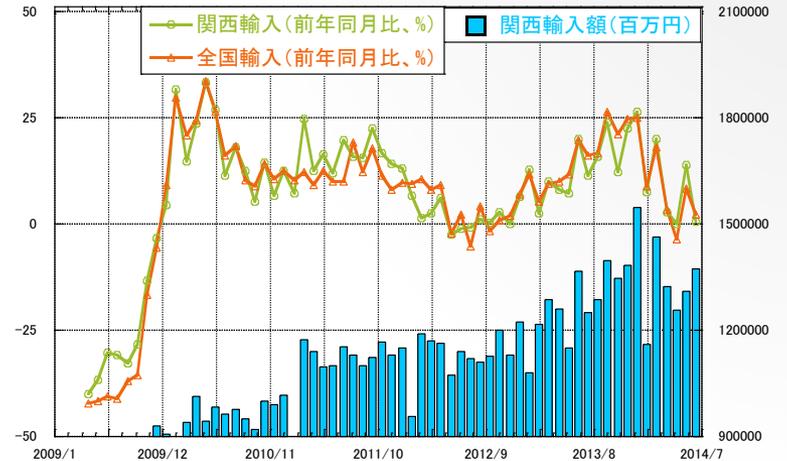
～輸出入～

輸出動向（右：輸出額、左：前年同月比）（2014年7月まで）



（データ出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課）

輸入動向（右：輸出額、左：前年同月比）（2014年7月まで）



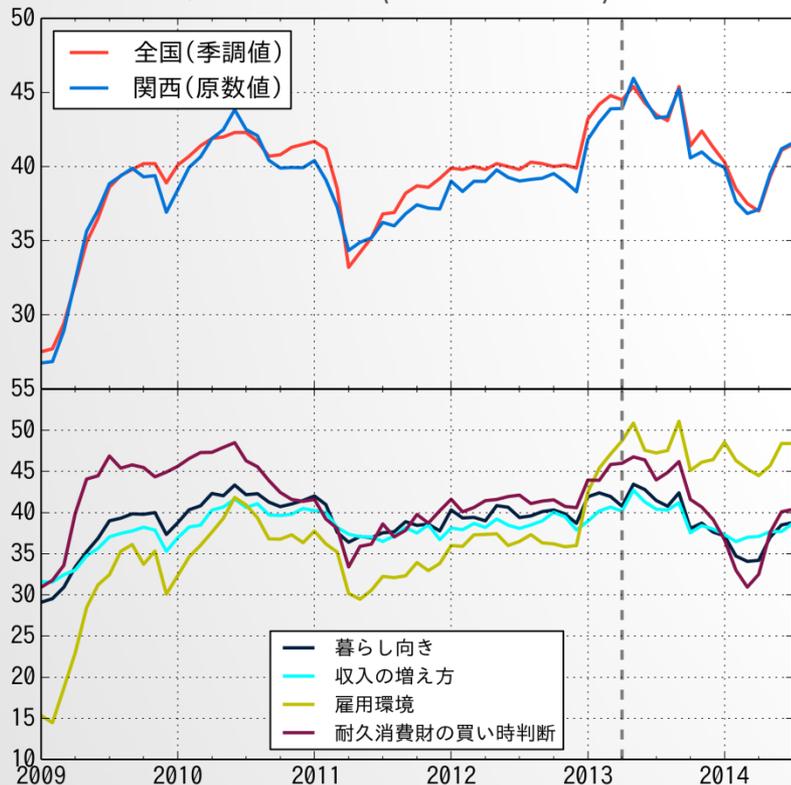
（データ出所：「財務省貿易統計」、財務省）

- 関西7月の輸出額（速報値）は1兆3,107億円、前年同月比**+5.5%**と17カ月連続の増加。伸び率は5カ月連続で1桁となったが、伸びは前月から加速した。
- 輸出増加に主に貢献したのは、科学光学機器（過去最高額）、有機化合物(単月過去最高)であった。
- 全国7月の輸出額（確定値）は6兆1,920億円、前年同月比**+3.9%**と3カ月ぶりの増加。自動車、金属加工機械、科学光学機器等の輸出が増加した。

- 7月関西の輸入額（速報値）は1兆3,724億円と単月過去最高を更新。前年同月比**+0.5%**と2カ月連続のプラスも、先月の2桁増に比して微増となった。
- 財別に見れば、医薬品、天然ガス及び製造ガス等を中心に増加。前者は過去最高額、後者は単月過去最高額を更新した。
- 全国の7月の輸入額（速報値）は7兆1,542億円、前年同月比**+2.3%**と2カ月連続の増加。財別に見れば、原粗油、液化天然ガス、石油製品等の輸入が増加した。
- 結果、関西の貿易収支は**-617億円**と5カ月連続の赤字となったが、赤字幅は前年比**49.9%**減少。全国の貿易収支（速速値）は**-9,621億円**と25カ月連続の赤字(赤字幅は同**6.8%**減少)。

～消費者センチメント～

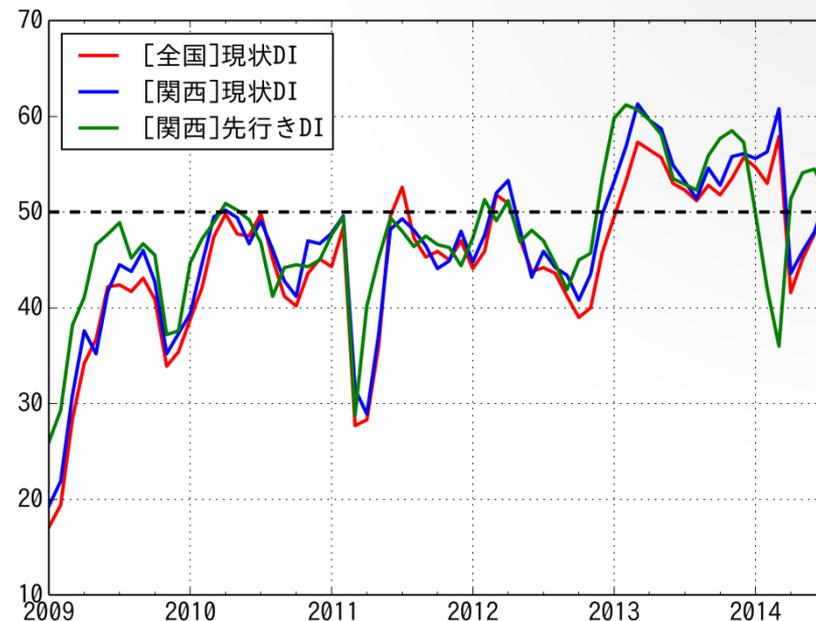
消費者態度指数(2014年7月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」(平成26年8月11日公表)

- 関西の7月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.4ポイントの41.6と、4か月連続で改善した。消費者心理の改善が続いているが、改善幅は幾分小さくなった。
- 同指数の構成項目をみると、4つの指標のうち3つが改善、1つが横ばい。「暮らし向き」は同+0.3ポイント、「耐久消費財の買い時判断」は同+0.3ポイントといずれも4か月連続のプラス。「収入の増え方」は同+1.0ポイントと前月の横ばいから2か月ぶりのプラス。「雇用環境」は同+0.0ポイントと前月から横ばいだが高水準を維持している。
- 全国の7月の消費者態度指数(季節調整値)は41.5となり、同+0.4ポイントと3か月連続で改善している。

景気ウォッチャー調査(2014年7月まで)

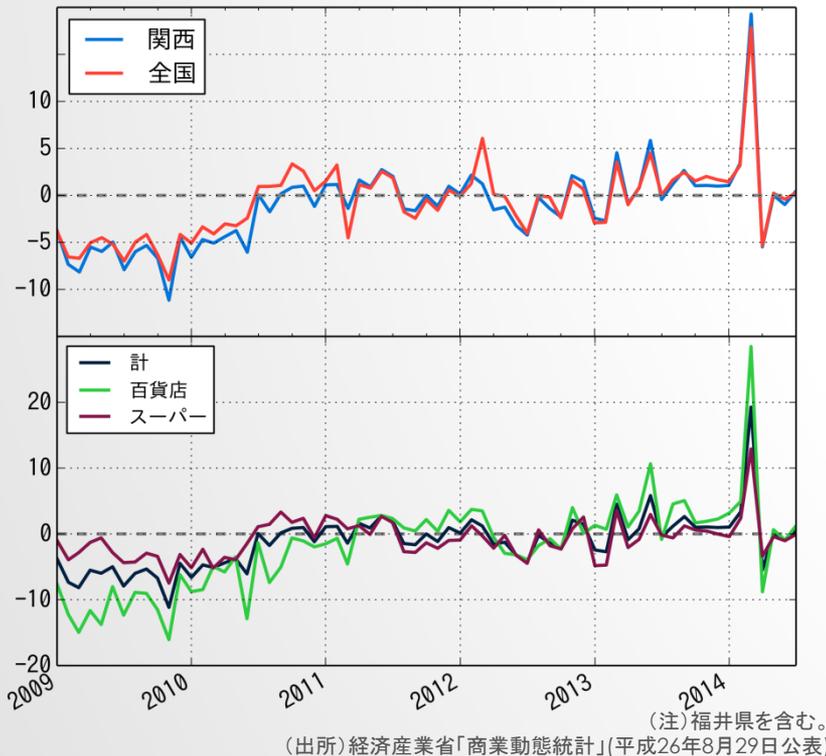


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成26年8月8日公表)

- 関西の7月の現状判断DIは前月比+3.5ポイントの51.4。
- 駆け込み需要の反動が落ち着きつつあることから、3か月連続の改善となった。
- 全国も同+3.6ポイントの51.3と3か月連続の改善。
- 先行き判断DIは、関西では前月比-2.6ポイントの51.9と4か月ぶりのマイナス。
- 全国では同-1.8ポイントの51.5と2か月連続のマイナス。

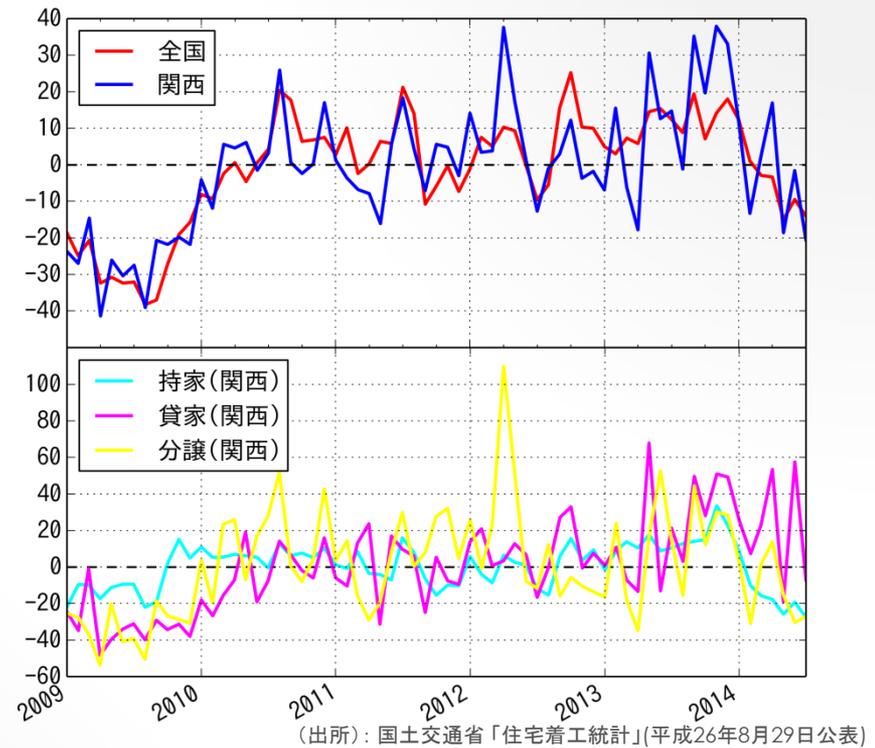
～個人消費・住宅～

大型小売店販売額(前年同月比:%、2014年7月まで)



- 関西の7月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+0.5%と2カ月ぶりのプラス。
- 百貨店も同+1.2%と2カ月ぶりのプラス。
- スーパーは同-0.1%と4カ月連続のマイナス。
- 消費増税から4カ月が経過し、駆け込み需要の反動減の影響は和らぎつつあるものの、7月上旬の天候不順が響き、やや消費を下押ししている。
- 全国でも、7月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+0.3%と2カ月ぶりのプラスとなっている。

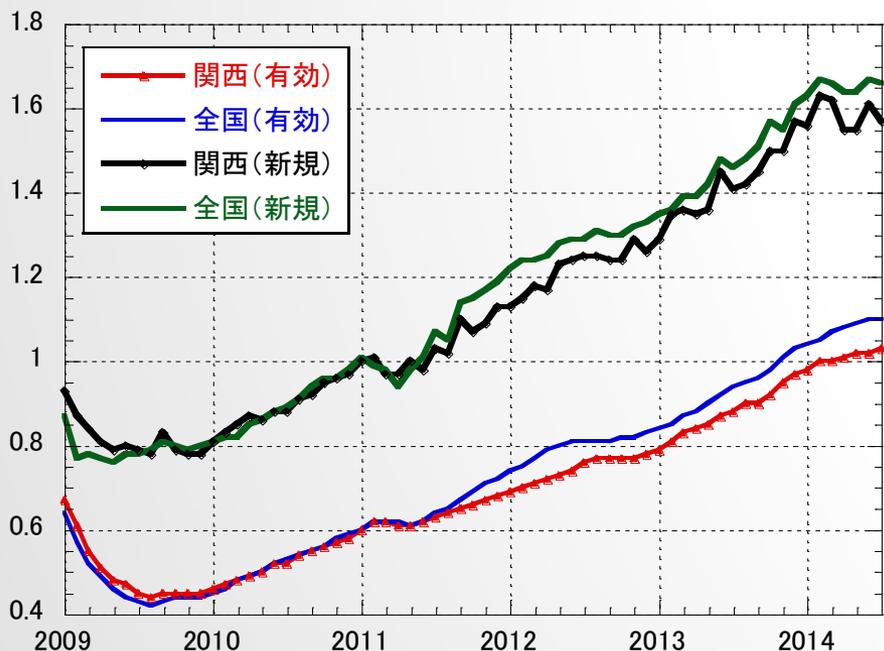
新設住宅着工(前年同月比:%、2014年7月まで)



- 関西の7月の新設住宅着工戸数は10,038戸。前年同月比-20.5%と大幅に下落し3カ月連続のマイナス。
- 全国でも同-14.1%と5カ月連続で下落している。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-27.6%と6カ月連続の2桁減、分譲が同-27.0%と3カ月連続の2桁減。また貸家は同-7.0%と前月の大幅プラス(同+57.5%)から2カ月ぶりにマイナスに転じた。
- なお7月の関西マンション契約率は73.8%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を34カ月連続(原数値は6カ月連続)で上回り、好調を維持している。

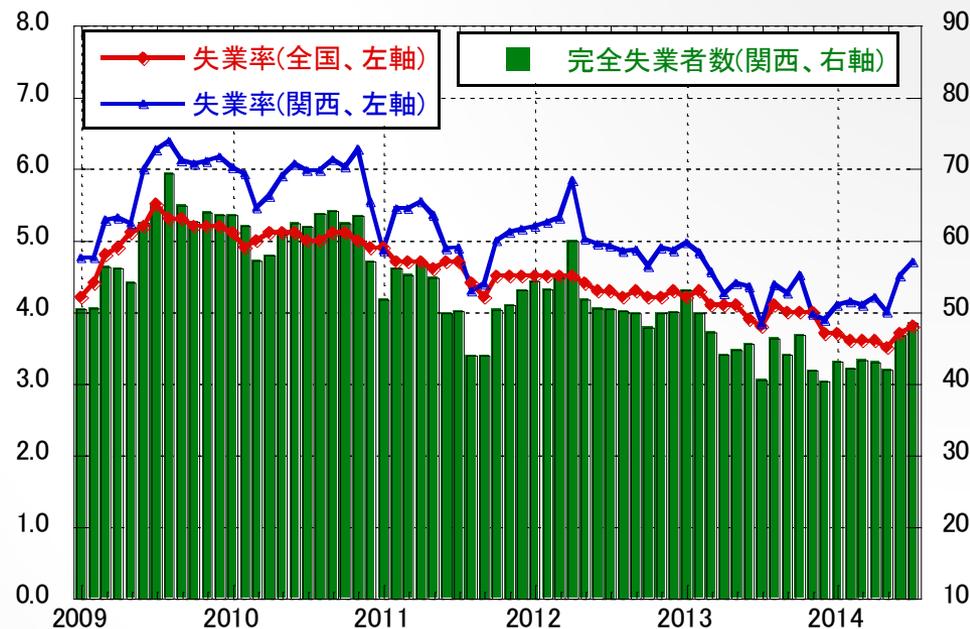
～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2014年7月まで）



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(2014年8月29日公表)

完全失業率の推移（季節調整値：%、万人、2014年7月まで）



(出所) 総務省「労働力調査」(2014年8月29日公表)

関西2府4県有効求人倍率(2014年7月)

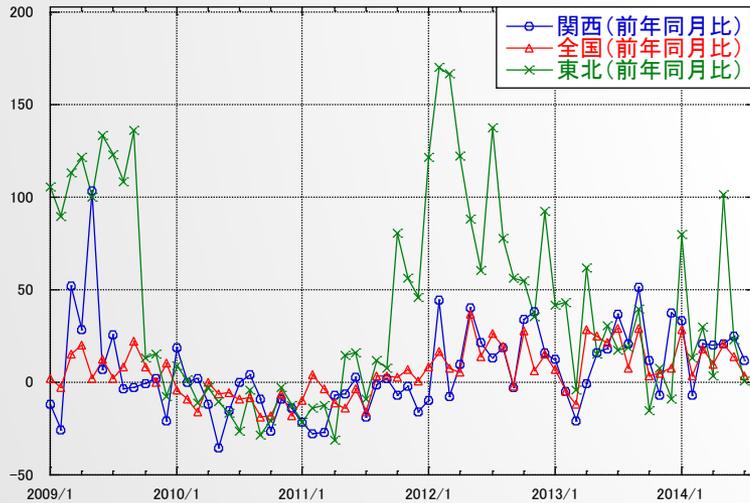
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
7月	1.10	1.03	0.97	1.07	1.13	0.89	0.90	1.02
6月	1.10	1.02	0.98	1.04	1.11	0.88	0.89	1.05

- 7月の関西の有効求人倍率は、1.03倍と前月から0.01ポイント上昇。2014年2月以降6カ月連続で1倍台を上回った。全国は1.10倍で前月比横ばい。2012年12月から20カ月ぶりに改善が止まったものの、引き続き高水準を維持している。
- 7月の関西の新規求人倍率は、製造業や医療福祉で引き続き求人数が伸びたものの、1.57倍と前月比-0.04ポイント下落した。全国も1.66倍と同-0.01ポイントの小幅下落。
- 関西の有効求人倍率を府県別にみると、滋賀県と和歌山県を除き上昇。京都府では、0.03ポイント上昇。

- 7月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は4.7%となり、前月(4.5%)から+0.2ポイントと2カ月連続の上昇。2013年2月(4.8%)以来の高水準となり、雇用環境の改善は一服している。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.8%となり、前月(3.7%)から+0.1ポイント上昇し、こちらも2カ月連続の上昇。就業者数の減少と、新たに職を求める女性が増えたことによる。
- 全国の就業率(原数値ベース)をみると、72.6%と前月(72.9%)と比べて幾分減少したが、引き続き好調を維持している。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は48.6万人。前月(46.7万人)から1.9万人増加した。

～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比:%、2014年7月まで)

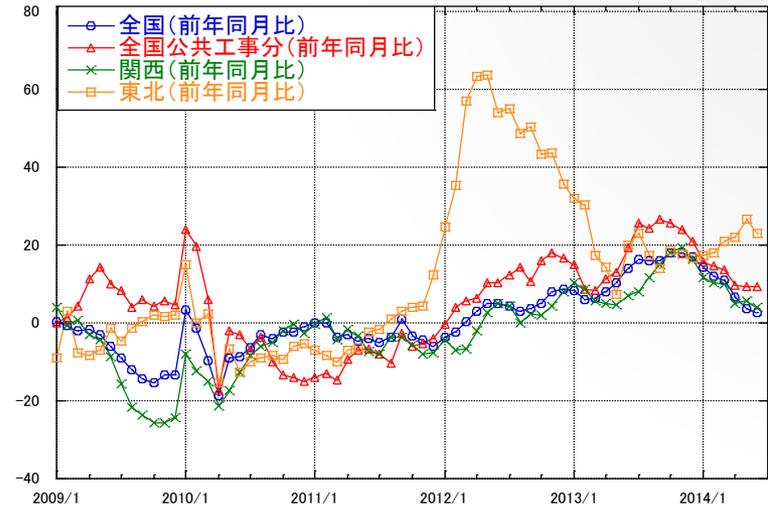


(注) 福井県を含む。

(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

- 7月関西の公共工事請負金額は1,645億円。前年同月比+12.2%と5カ月連続のプラス。
- 全国は1兆6,273億円と同+3.5%、16カ月連続のプラス。伸び率は5カ月ぶりに1桁となった。
- 東北は2,913億円で同+1.0%と、7カ月連続のプラスも、伸び率は前月(同+23.0%)から大幅減。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国とも2カ月連続の前月比マイナス(関西：同-5.8%、全国：同-3.0%)となった。請負金額は関西、全国共に伸び率は減速している。

建設工事(前年同月比:%、2014年6月まで)



(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西6月の建設工事は4,621億円。前年同月比+4.2%と26カ月連続のプラスも、伸び率は3カ月連続で1桁となった。
- 東北は4,894億円、同+23.1%と35カ月連続のプラス。伸びは依然20%台を維持している。
- 全国は同+2.8%増加し3兆6,344億円となり、28カ月連続のプラスだが、8カ月連続で減速。全国の公共工事は1兆4,108億円、同+9.4%と29カ月連続のプラスで伸びは前月から横ばい。
- 引き続き、東北は高い伸びを維持しているものの、全国的に伸びは減速傾向。

～中国経済動向①～

中国製造業購買担当者景況指数 (2014年8月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 8月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、前月から-0.6ポイント低下し、51.1となった。6カ月ぶりの悪化。
- うち、生産指数は53.2となり同-1.0ポイントと4カ月ぶりの悪化。
- 新規受注指数は52.5となり、同-1.1ポイントと6カ月ぶりの悪化。
- 輸出新規受注は同-0.8ポイント悪化し50.0。4カ月ぶりの悪化。
- 雇用指数は48.2となり、同-0.1ポイント低下し、2カ月連続の悪化。2012年6月以来、27カ月連続で50を下回っている。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年7月まで:%)



出所：中国海关总署;CEICデータベース

- 7月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+14.5%増加し、4カ月連続のプラスとなった。輸入額は同-1.53%(速報値)となり、前月(+5.6%)からマイナスに転じた。
- うち日本への輸出額は同+2.9%となり、前月(-0.6%)からプラスに転じた。日本からの輸入額は同+0.1%と2カ月連続のプラス。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+5.0%となり、5カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+2.1%となり、2カ月連続のプラスとなった。

～中国経済動向②～

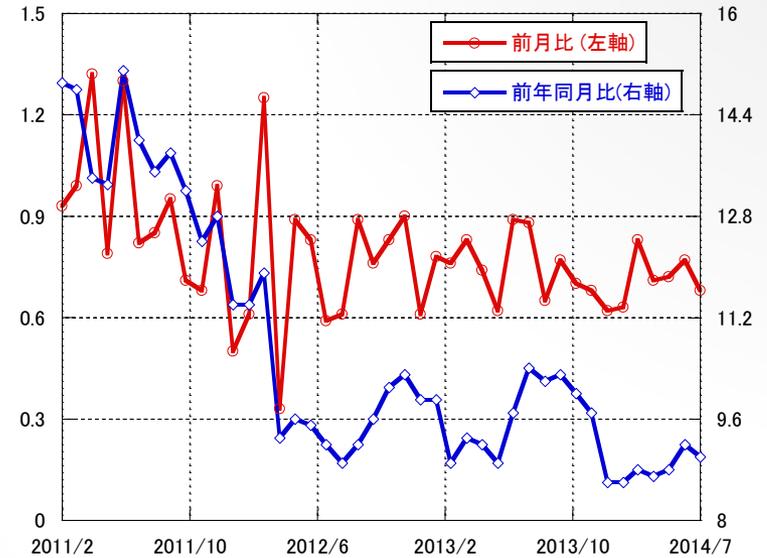
固定資産投資 (2014年7月まで:%) (累積伸び率)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 2014年1-7月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+17.0%となり、1-6月期(同+17.3%)から幾分減速した。
- 産業別に見れば、第1次産業は同+25.1% (前月24.1%)、第2次産業は同+13.9% (前月14.3%)、第3次産業は同+19.2% (前月19.5%) となった。

工業生産動向(2014年7月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 7月の工業生産は、前月比+0.7%と3カ月ぶりの減速(6月：同+0.8%)となった。前年同月比は+9.0%と前月(+9.2%)より縮小した。
- 産業別に見ると、鉄道・輸送機器製造業(前年同月比+16.6%)、有色金属の製錬・圧延加工業(同+12.9%)、金属製品製造業(同+12.8%)、自動車製造業(同+12.8%)が高い伸びを示す一方で、繊維工業(同+6.5%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+5.2%)、電力・熱力生産・供給業(同+0.9%)は比較的低調な伸びにとどまった。